

★ クリスマスと★
★ ちいさなえんじたち ★



文／サラ・ドッド 絵／ドゥブラヴカ・コラノヴィッチ 訳編／女子パウロ会



クリスマスと ちいさなてんしたち



文/オラ・ドッド
絵/ドゥアラガカ・コラノヴィッチ
女子バウロ会

マリアは びっくり！

マリアは、もうじき、ヨセフと けっこんすることに きめていました。
ヨセフは とても やさしい わかもので、しごとじょうずな
だいくさんでした。
そんなあるひ、マリアのところに かみさまのおつかい、てんしがきたのです。
きょうに あかるくなった へやで、マリアがびっくりすると、
てんしはいいました。「びっくりしないで、マリア。
わたしは、かみさまのおつかい。
かみさまは あなたに、
かみさまの おんこの おかあさんにな
ってほしいって。おんこには
イエスと なまえをつけてね。」
「それって、どういうことかしら？
わたしは まだ けっこんしていないし、
ヨセフは どうなるの？ きっと
かなしがるでしょう」と
マリアは おもいました。



その しんばいせうな かおを みて、てんしはいいました。
「おっしゃるとおりにすれば、かみさまは、とても
およろこびに なりますよ。せかいじゅうのひとが
よろこぶことに なるんだから。」



「かみさまが およめこびになる？ それなら、
おっしゃるとおりに なりますように」と
マリアは こたえました。

「ありがとう」と、てんしがわいて、見えなくなると、
マリアは、ふかく いきをすって、そとにでました。

「このことを、ヨセフに はなさなければ。」



わるいしらせ、いいしらせ



ヨセフは おむれません。「こんなに わるいしらせって あるだろうか。
ほくと けっこんするはずだった マリアが あかちゃんをうむって？
ほくは どうすればいい？」あっちに ねがえり、こっちに ねがえり……
やっと、ちょっと おむったとき、ヨセフは ゆめをみました。

ヨセフがつくった いすのうえに、
てんしが ちゃんと すわっています。

「いい いすだね。」

きみがつくったの？」

ヨセフは うなずきました。

「そうだよね。かみさまが、

ヨセフは どんなしごとでも
たいせつにして、きちんとやる
と、おっしゃっていたよ。だから
かみさまから えらばれたんだ。」



「えっ、えらばれた？ なんのこと？
いま、わるいしらせを きいたばかりなのに。」
こんどは、てんしが ききます。
「わるいしらせって、なんのこと？」



★ ヨセフは こたえます。「まだ けっこんしていないのに、
マリアに あかちゃんが うまれるって いうんです。
はくは どうしたらいいか わからない。」
すると、てんしがいいました。

「わるいしらせじゃなくて、いいしらせだよ。
そのあかちゃんは、かみさまの おんこ。かみさまは
きみに そのおんこを そだててもらいたいわって。」

ヨセフは ほんと めをさまして、いそいで、
マリアのいえに はしっていきました。
「まだ、はくと けっこんしてくれるよね、マリア。」
マリアは にっこりして、いいました。
「もちろん！」





ベツレヘムへの たび

「マリア、ぼくたちは ベツレヘムへ いかなければ
ならないんだ」と、ヨセフがいいました。

「おうさまの めいれいなんだよ。」

「ベツレヘム？ とおいまちね。」

おなかのあかちゃんは だいじょうぶかしら。」

「ああ、ろばにのって、ゆっくりいけば

だいじょうぶだよ。このろばは、かしこいんだ。」



ろばは、おなかのおおきな マリアをみて、うれしそうに、
みみを びくびくさせました。

なんにちも あるきました。やっと、やっと、ベツレヘムに ついたとき、
どこのやどにも あいたへやは ありません。

「どうしましょう、あかちゃんがうまれそう。」

